

HIROYOSHI NAMATAME



なまため・ひろよし ●昭和55年10月生まれ。赤坂東野字広畑在住。生田目ガス店(小名沢)経営。趣味は野球。座右の銘は「継続は力なり」

私は緑豊かな鮫川村で生まれ育ちました。高校卒業後、修行のために二年ほど村を離れたが、家業を継ぐという使命で帰ってきました。仕事柄村民の方々と接する機会が多いので、会ったときや見かけたときには気軽に声をかけていただけました。現在、私は家族五人で住んでいます。七年前に結婚し、子どもを三人授かりました。長女が六歳、次女が四歳、三女が二歳。騒々しい日々を幸せと感じ、楽しく過ごしています。

村民【随想】リレー — 188

# 生田目宏好さん

## 家族

仕事で疲れて家に帰ると三女が走ってきて大きな声で「おかえり」と迎えてくれたり、「パパと一緒に風呂に入る」と言ってくれることで一日の疲れがとれ、癒やされています。もちろん良いことばかりではありません。時にはけんかをしたり、いたずらをしたりと悩む時もあります。妻と協力して解決していきます。こんな日々の積み重ねが家族の絆を深めていると考えています。だから、私は家族と一緒にいられる時間を大切にしていきたいです。皆さんも家族で過ごす時間を大切にしていますか？

次は、清水大翼さん 赤坂東野字葉貫にバトンタッチ！

# さめがわを 彩る集い 24 詩吟を通して先人の教えを学ぶ



## 天山流鮫川吟琇会

青戸良一会長/会員6名

昭和六十三年に結成した「天山流鮫川吟琇会」は、木戸トシ子さん(石川町)を講師に月二回の練習を行っています。村芸能発表会や福祉施設などで披露しているほか、県内外の大会に年数回出場し、上位入賞などの成績を残しています。漢詩を覚えるために始まったとされている詩吟は、「歌う」ではなく「読む」ことに重きをおいています。また、吟じるだけでなく、漢詩を通して先人の教えや道徳心などを学んだり、詩を詠んだ人の思いにふれることができる魅力があるといえます。さらに、「詩吟を通して多くの人と知り合えた」「腹式呼吸で声に力が入るようになった」など、詩吟をやっていたよかったですという声が多く聞かれました。今後、村の若い人たちにも詩吟の伝統を引き継いでもらいたいと、会員を増やすことを目指しています。

# Book

## 図書館の缶詰

図書館からおすすめの本をご紹介します 鮫川村図書館 ☎ 29-1150

### ランチのアッコちゃん

(柚木麻子著、双葉社)

屈託を抱えるOL三智子は、有能な上司「アッコ女史」からランチの交換を言い渡される。1週間三智子の手作り弁当を渡す代わりに、アッコ行きつけの店でランチをするという。読んでおいしい、前向きになれる短編集。

### 食べるならどっち?

(渡辺雄二著、サンクチュアリ出版)

子どもが好きだから、安いから、便利だからなど、ついつい買ってしまう食品。それは食べても安全? 「食べてはいけない!」と指摘されるのではなく、同じ商品が2つあってどうせ食べるならこっち! という紹介の1冊。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日

## 俳句

難人形ふたりの孫に良く似たり  
中井 恒峯  
千年にあやかりたいや旧正月  
小松ハル工  
一年の疲れとりにと冬湯治  
北條素人坂  
どんど焼無病息災乞う火勢  
松本 精一  
千拓の南湖に集う鳥の数  
前田 縫子  
いぬのふぐり咲いたとはずむ立ち話  
鈴木 米子  
お降が里山清め日の出待つ  
黒田 寿香  
元気なのは年賀状の馬ばかり  
土竜 庵  
冬の朝車窓より望む町の裏  
山本 恵子  
酷寒の火の用心車走り行く  
齋須 信子  
むじなっぱだきの童等の声絶えてなし  
山本五十鈴

## 短歌

腰痛は人の宿命との記事あるも負けるものかと体操に励む  
鈴木イミ子  
つるやに集う親友会のメンバーは職を遂げたる貫禄のあり  
佐藤 春枝  
様ざまの思いを捨ててわが作る野菜はいつも新鮮にあり  
矢吹 定子  
花のいろいつも明るく周辺を染めて香りぬ 季の彩に  
須藤 幸子  
しがらみを解いてくれるか一本のもつれし糸にこだわる夕べ  
水野 珠子  
慈愛にも満ちてすくすく育ちゆくわが家の曾孫に夕日が赤い  
関根 瑞恵

育めばつばめでさえや愛情の餌を運ぶというわが軒先に  
溝井 清乃  
のんびりと過ごせる時間は畑にあり土手に腰かけ花と対座す  
坂本 伊紀  
五輪など縁の遠しと思っても命をつなぐ目当ての一つ  
一平 子  
雪も無く只寒い日の続きいて日向の部屋に侘しくペン執る  
石井 幸子  
長寿会多数集いて新年会今年の抱負に会員湧きぬ  
須藤シツ工  
音もなくしとしと降る秋雨に遠く鴉の鳴く声淋し  
松本 一郎  
日溜りに春告げるがに福寿草優しく小さな花を咲かせり  
前田喜三子  
立春の雪のむら消え土手下に寄り添い咲きぬいぬのふぐり草  
関根ヨネ子  
大寒の寒さ厳しく部屋の中遺影の前にて茶を汲み惚ぶ  
藤田千代子  
鉢植えの友にもらいし紅梅の春待つ吾の心めり  
関根ハナ子  
常なるも遠のく便り気にもせず我なり過ぎず歳相応に  
関根 富久  
思えみる年は幾つに成ろうとも若い心は持ち続けたく  
板橋 源良  
一月の光集めて地に低く枯草の中福寿草咲く  
関根キヌ子  
老体に気力だけわと鞭打つも年毎厳しく人生下り坂  
矢吹 一二  
凍て土に芽を出し初める水仙の自然の営み吾にささやく  
北條 平

若者の広場 No.111

# Young Plaza

■今、夢中になっていることは何ですか？

今シーズンからはじめてのスノーボードです。初心者なので、友達に教えてもらいながらターンの練習をしているところです。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

もともと子どもが好きで、高校生の時から保育士に憧れていました。資格を取れたら、なりたいと思います。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

山に囲まれていて自然豊かだと思います。夏は涼しくて、ホテルがきれいで最

高です。また、たまに友達と「手まめ cafe」に行っています。落ち着ける雰囲気、何時間でもいられるのがいいですね。鮫川村にのんびりできる場所ができてよかったです。

■鮫川村に要望などはありますか？

若い人たちが残るような村になってほしいです。村に残っている同級生が少ないので、県外などに進学したとしても戻ってきてもらえたらいいなと思います。

次は高坂美香さん（赤坂西野字上在住）の予定です。

## 矢吹奈緒さん



やぶき・なお  
平成4年8月25日生まれ 21歳  
A型 おとめ座  
趣味はスポーツ  
赤坂東野字遠ヶ竜在住

ホテルがきれいな夏は最高です

■紙すき体験  
体験学習でお世話になっている齋須寛一さんに、鮫川和紙の歴史や製法、環境との関わりについて講義をしていただきました。その後、マイナス五度の寒さの作業場の中で、一人一人が

■豆まき集会  
今年の年男、年女となる児童が多い五年生が「追い出したい心の鬼の発表」「節分〇×クイズ」「豆まき」などを企画運営しました。特に、「豆まき」では、鬼のお面や衣装を着た五年生の男の子が下級生たちの周りを囲んで盛り上げてくれました。



寒さに負けず、元気に活躍

# 学校だより

(113)

鮫川小学校編

■一日入学  
来年度入学予定児童三十名が参加しました。自分の名前が呼ばれると「はい」と元気な声で返事をするのができました。校長先生のお話もしっかり聞いて、四月の本当の入学式を楽しみにしていました。一日入学の後には保護者説明会となり、保護者の方に入学手続きの説明と情報モラル講演を聴いていただきました。また、入学予定児童の皆さんは、本校の一年生から折り紙などのプレゼントをもらったり、ゲームをしたりと楽しんでいました。

(文・写真/鮫川小学校)



ほとんどお孫さんや友人にあげてしまいますが、初めて作った吊るし雛は大切に保管し、節句に飾っています。

もともと裁縫が好きで藤田初枝さん。お孫さんが一人立ちして時間に余裕ができたころ、「何か手仕事を」と思い立ち、本を参考に吊るし雛を作り始めました。材料は、手芸店で購入するほか、着古した着物や帯などを使うことが多いといいますが、飾りの種類が多い吊るし雛は、材料が多く、一つ欠け

ただで完成しません。そのため、材料をそろえることもひと苦労です。約三十種類の飾りを作ることでできる初枝さん。飾りによつては一日では完成しないものもあるといいます。「飾り一つ一つに意味や願いがあって、その願いを込めながら作っています」。そのようにして作られた飾りを集め

て、一つの形にして吊るし雛が完成。根気がいる作業です。人に頼まれて作ることもあり、「喜んでもらえること作りがいいですね」と、楽しみの一つになっています。現在は、ひ孫さんの初節句に向けて制作中で、いずれはお孫さんたちに一つずつ作っては針を進めています。



## あなたの光る技 キラリ Vol.20

### 吊るし雛 藤田初枝さん

ふじた・はつえ/赤坂西野字本坂/77歳

## 根気がいる手仕事 一つ一つの飾りに願いを込めて



初枝さんの作業スペース。集中しているときは、夜遅くまでやることもあります。